

第50回全国中学校ハンドボール大会

試合結果・戦評報告

競技日	令和3年8月24日(火)	試合番号	C 9	回戦	女子準々決勝
種別	中学生	会場	浦和駒場体育館		

A チーム			B チーム		
東久留米西 (東京)			大住 (京都)		
得点合計	小計		小計	得点合計	
28	14	前半	5	13	
	14	後半	8		
		第1延長前半			
		第1延長後半			
		第2延長前半			
		第2延長後半			
		7 m T C			

戦評

東久留米西のスローオフで試合開始。先制点は大住。速攻から15番のミドルシュートで得点。東久留米西もすぐに7mを獲得、同点に追いつき、さらに13番のカットインで加点。対して大住は9番がインターセプトからそのままドリブルで得点する。その後東久留米西が連続得点し、徐々に点差を広げるが、大住もGKが再三好セーブでチームを救い粘りを見せる。3-6で大住タイムアウト、ダブルポストから得点機を伺うも、東久留米西DFの壁は厚く、13分のノーマークの機会もGKに阻まれる。東久留米西は着実に得点を重ね、速攻も決まり始め、9点差をつけて前半を終了した。

後半立ち上がり、東久留米西の速攻を防ごうとした大住6番が退場、7mも決まり、2連続得点。さらにコンペネーションプレー、ポストプレー、ロングシュート、サイドシュートとバランスよく加点。大住は4番のロングシュート、3番のカットイン、サイドシュート、GKの好セーブなどで反撃するも力及ばず試合終了。点差はついたが、東久留米西の速攻に対して十分研究した跡が見られ、後半は前半を上回る8得点と健闘した。一方東久留米西は、動き、判断の速さと質は大変高いレベルにあり、特にパススピードは特筆に値すると思われるが、得点差がついた後半のつなぎのミスは、昨日に続き改善すべき課題となった。

記載者名

大島琢哉